



民俗行事・芸能を継承・保存する12団体による「越生町文化遺産活用事業」が本格的に始まりました。大掛かりな工事となる山車本体の修理や山車飾幕の復元事業が着々と進められています。
① 6月23～25日、株式会社

越生浪漫 No.162

越生町文化遺産活用事業 経過報告①



吉匠建築工芸（八王子市）による本町山車の解体工が行われました。車輪から上の構造材が解体され、彫刻や鋳金具

左：解体作業中の本町山車（6月24日撮影） 右：廻り舞台の部材を外す（6月25日撮影）



も丁寧に取り外されて搬出されました。本町山車は大正8年（1919）に東京神田宮本町の亀甲斎清秀（小倉秀太郎）が製作したもので、上鉦には八咫鳥に導かれる神武天皇が飾られます。町内では唯一腰幕（山車下部に巻く幕）がなく、石川三三郎信光による彫刻が施された腰板がつけられています。

黒岩町山車の腰幕部分を採寸（6月26日撮影）



② 26日、株式会社長野屋（熊谷市）が、黒岩町山車の現地調査（採寸）を行いました。黒岩の山車は明治27年（1894）の製作と推定される熊谷の鎌倉町のもので、町内唯一の二重鉦構造は高さ8mまで、素戔嗚尊の人形を乗せてせり上がります（一昨年復元）。明治期に鎌倉町で撮られた写真をもとに飾幕の色・素材・柄などを考証し、復元製作していきます。



左、右上：解体作業中の上町山車（7月3日撮影）

③ 7月2・3日、株式会社荒木社（秩父市）による上町山車の解体搬出が行われました。上町の山車は、明治19年に東京谷中初音町一丁目と上三崎町の山車として造られ、日暮里の諏方神社で曳き回されていたものです。現在に至るまで大規模な修理を行っていませんでしたが、これを機に劣化がみられる後輪芯棒や骨組みの修理、塗装を行います。

今後も、河原町・新宿・仲町の山車解体工や、越生東二区囃子連、獅子舞保存会4団体、越生里神楽保存会の用具整備の事業経過を報告していきます。



越生小学校

6月14日（火）は、1～3年生が梅干しづくり体験学習を行いました。梅のへたを竹串で取り除いたり、樽に塩と梅を交互に入れてついたり、真剣に取り組むことができました。最後にみんなでおいしくなれ!とおまじないをしてふたをしました。できあがりを楽しみます。

梅園小学校

6月22日（水）、23日（木）に小川げんきプラザで越生小、梅園小の5年生が宿泊学習を行いました。1日目はスタンプラリーをしたり、キャンドルの火を囲んだりして盛り上がりました。2日目の野外炊事では、手早くおいしいカレーが出来上がりました。



おごせっ子広場

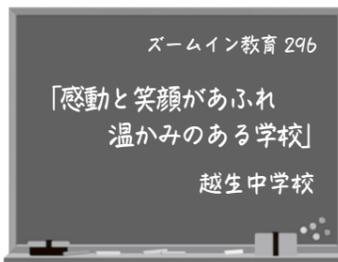
町内の小中学校や町の行事等に参加する子供たちを写真で紹介するコーナーです。



越生中学校

6月23日（木）、24日（金）に、今年で27回目を迎える立志発表会が行われました。自らの進路を考え、自分の将来について語る3年生の堂々とした発表は、参観者からもたくさんの賛辞をいただきました。

越生中学校では、本年度、生徒数二百十四名、教職員数二十九名で、順調に教育活動に取り組んでいます。校訓は「立志」学校教育目標は「自立の力を育む」そして本年度の目指す学校像を「感動と笑顔があふれ、温かみのある学校」としました。すべての生徒に居場所があり、思いやりや優しさに包まれた温かい雰囲気の中で、一人一人が夢や希望に向かって力強く歩んでいける。そんな学校でありたいというも思っています。今年の生徒たちも、これまで多くの先輩たちが大切にしてきた「越中生としての自信と誇り」を受け継ぎ、毎日の授業や部活動、学校行事などに一生懸命取り組んでいます。生徒たちには生きる力を身につけ、将来、自立した



一人の社会人として大いに活躍してくれることを期待しています。

そして、越生町への愛着を一層深め、いつまでも故郷を大切に思い、それぞれの立場で越生町を盛り立ててくれる人材に育ってほしいと願っています。本年度もよろしくお願いたします。